

平成27年度 第3回 総合教育会議 次第

日時：平成27年11月19日(木) 15:00～17:00

場所：庁議室

1 開会

2 市長あいさつ

3 「浜松市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」について

4 意見交換

「学力向上の取り組み」について

5 閉会

－ 配付資料一覧 －

資料 1	第2回総合教育会議 議事録(大綱の意見部分の要録)
資料 2	大綱案
資料 3	意見交換資料

第2回総合教育会議 議事録(大綱の意見部分の集約)

<体裁> A4用紙1枚、コンパクトで骨太

<形式> 普遍的な内容を含め、5年後に見直しを行い、継続することもあり得る。

<内容>

【対象】市民全体(子どもの部分の比重を大きく)、生まれてから亡くなるまでの一生

【構成】理念を中心とした3・4項目と、それに対する具体的な説明・例示

【キーワード(浜松らしさ、浜松の良さが出ているもの)】

○人づくり

○やらまいか精神

○市民協働、市民総がかり

○多文化共生

○創造都市

【人づくりの理想(どのような人を育成するのか)】

やらまいか精神を持った人(自立、民の力を活かす)

自分の将来を自分でつかむことができる

どうやって浜松に貢献できるか、世界に羽ばたいていくか、自分の頭で考える

一生学び続ける

夢や希望を持ち続ける、実現のために努力し続ける

社会と関わりを持ち続ける(地域を担う)

豊かな感性を持つ

【視点】

[全体] 市民が一目で分かりやすいもの

浜松の人づくり、まちづくりがイメージできるもの

教育総合計画の積み重ねを活かし、さらに高める

[市民協働] 子どもだけでなく、大人も学べる仕組みづくり、ネットワーク化

企業の協力(企業教育の成果を学校へフィードバックする)

[記載項目] 市長事務部局、教育委員会、学校が担う役割

子ども中心の考え方から、それを担う大人の決意

[教育] 縦のつながり(幼少中の連携)、横の広がり(社会総がかり教育)

夢と志(子どもの原動力となる動機付けの役割を教師が果たす)

浜松市教育推進大綱

浜松市は、県庁所在地や大都市近郊でない地方都市が、ものづくりを始めとした民間の力を中心に自立的な発展を遂げ、政令指定都市の仲間入りを果たした全国でも類いまれな都市です。その原動力は、何事にも果敢に挑戦する「やらまいか精神」という本市の伝統的な進取の気性です。

この「やらまいか精神」を未来へつなぐために、市民が一丸となって、子どもたちが社会を生き抜く資質や能力を育むとともに、生涯にわたって夢と希望を持ち、その実現のために大志を抱き、果敢に挑戦し続けるひとづくりに取り組みます。

市民協働によるひとづくり

- ♪ 園・学校と家庭、地域、市民活動団体、企業、大学などとの協働により市民総がかりで子どもの教育に取り組み、子どもの学びの機会と場を拡充します。
- ♪ 市民主体の学習活動を拡大しネットワーク化することで、子どもも大人も共に学び、成長を続けることができる仕組みづくりを行います。

子どもの学びと育ちを支える環境づくり

- ♪ 今後ますます進展するグローバル化、情報化などの社会環境の変化に対応する力を伸ばす教育を推進します。
- ♪ 不登校、外国籍、障がいのある子ども、経済的に恵まれない子どもへの支援体制を強化するとともに、互いの個性を認め合い、心の通い合う人間関係を築き、いじめをしない、許さない子どもを育てます。

創造性があふれるまちづくり

- ♪ 誰もが学びのきっかけとなる楽しみや生きがいを見つけ、その成果が地域に還元され、豊かな社会を創造する力となるよう、音楽を中心とした芸術や、広大な市域に広がる多様な伝統文化などに触れる生涯学習の機会を創出します。
- ♪ 互いの文化や価値観を認め合い尊重しながら活発に交流する多文化共生のまちづくりを進めます。

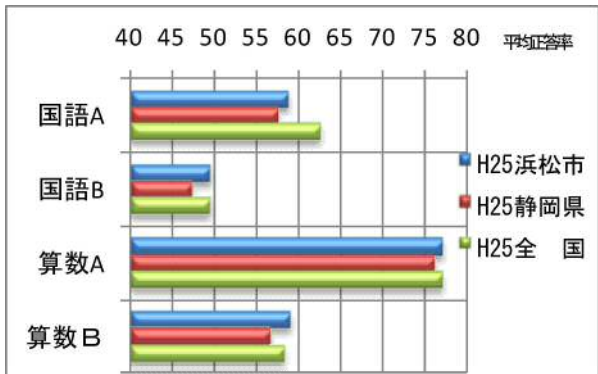
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項に規定する大綱を上記のとおり定める。
平成27年○月○日

浜松市長 鈴木 康友

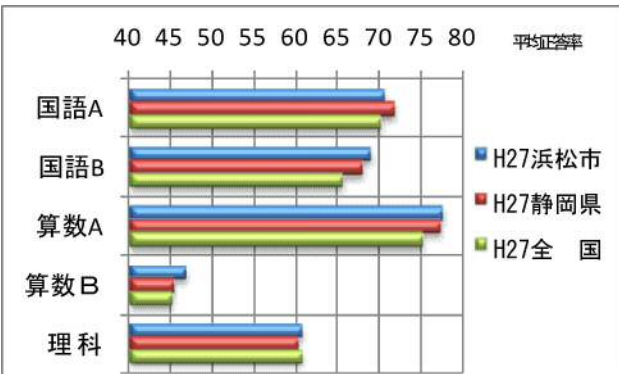
1 本市の子供たちの状況

平成 25～27 年度 全国学力・学習状況調査結果（平均正答率）

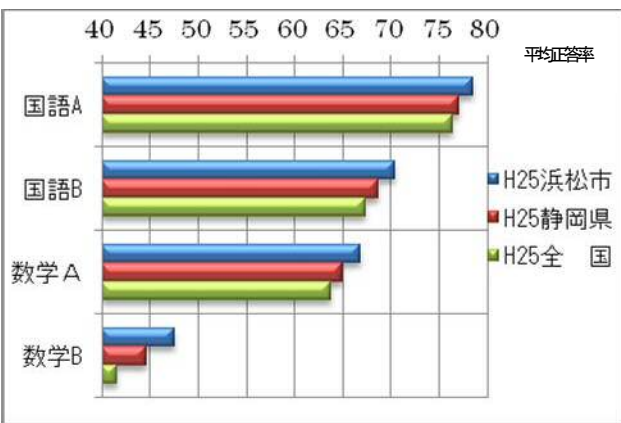
H25 小学校



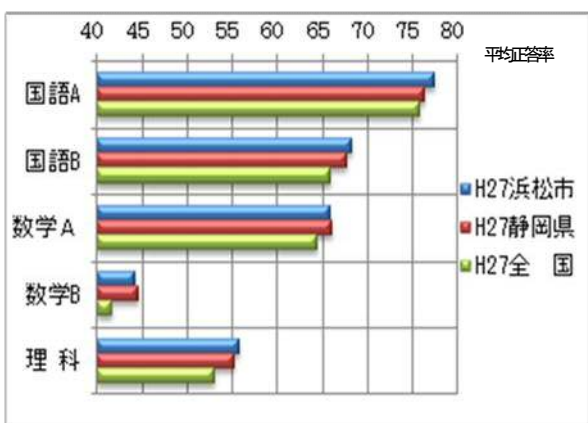
H27 小学校



H25 中学校



H27 中学校



【考察】

- ① 学力について
 - 国語科は、文章の内容を正しく捉えたり、資料を読んで文章にまとめたりする力がある。
 - 算数・数学科は、計算力が身に付いている。
 - 理科は、習ったことを日常に当てはめて考える力がある。
 - 根拠をはっきりさせて自分の考えを述べたり、考察したりすることに課題がある。
- ② 学習状況について
 - 自分にはよいところがある、人の役に立ちたい、規範意識が高いなど、浜松の子供のよさが質問紙から分かる。
 - 家で学校の宿題をしている子供の割合が、全国に比べて高い。
 - 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」子供の割合は、増加傾向にあるが、全国に比べると低い。

2 教育委員会の取組

①学校に対して



【「浜松の学力再考」を発信】

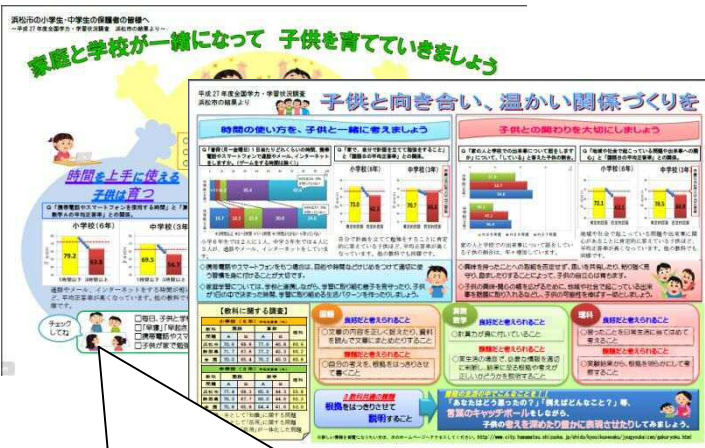
＜内容＞

- ◆ 全国学力・学習状況調査から分かった
- ◆ 子供の学力や生活習慣の傾向と課題
- ◆ 学校で取り組んで欲しいこと
- ◆ 授業改善のアイデア



各校で、学力向上プランを作成し、PDCAサイクルを回すよう指導。

②家庭に対して



家庭学習の充実を図るための資料作成を学校に依頼。教育委員会からはモデルを提案。



【保護者向けリーフレットの作成と配布】

＜内容＞

- ◆ 全国学力・学習状況調査の結果から分かった
- 生活習慣と学力の相関関係
- 家庭で実践して欲しいことの提案

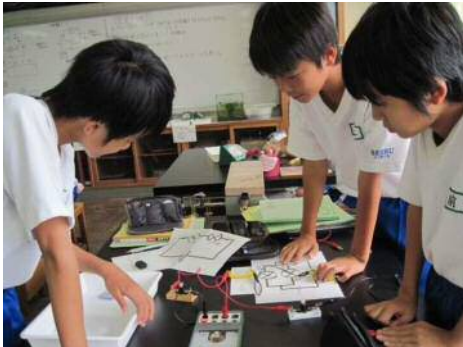
4 学校の取組（2）

【進む授業改善】

「何を教えるのか」（知識の質・量）から「どのように学ぶのか」（学びの質や深まり）へ



体験的な学び、協働的な学びにより、思考力・判断力・表現力を高めていく授業実践（授業改善）が進んでいる。



体験を通して学ぶ～直接体験することにより意欲を高める



友達と協働して学ぶ～友達と協働して学ぶことにより学びの質を深める



ICT活用を含めた情報交流ツールの工夫